

実践事例や教材の活用事例等、英語科の先生方に参考にしていただける情報をお届けします。

実践
紹介毎日の言語活動に
plus oneを！

札幌市立真駒内中学校
石岡 達朗

はじめに 「英語が話せる」というと、皆さんはどんな姿を思い浮かべますか？ 相づちやジョークを交えて楽しく会話している様子を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。「英語で楽しく伝え合う」ためには、相づちを打ったり、聞き返したりといった、発音や文法とはまた別の技能を、授業の中で繰り返し使い、身につけていく必要があります。

1 plus oneとは？

私の授業では、Me, too. / Really? / Great! / Oh, no. / That's too bad. / Pardon? / I see. / Thank you. などの表現を **plus one** と呼び、毎日の言語活動で使っています。相手に質問をして、答えが返ってきて終わりではなく、一言反応を返すことで、コミュニケーションをより楽しく、より深くすることができます。相手の返答や自分の気持ちに合わせて、**plus one** を即興で使う経験を繰り返すことで、あいさつのように自然と返せる状態を目指しています。

2 言語活動にplus oneを！

plus one を使った2年生の実践を二つ紹介します。

図1

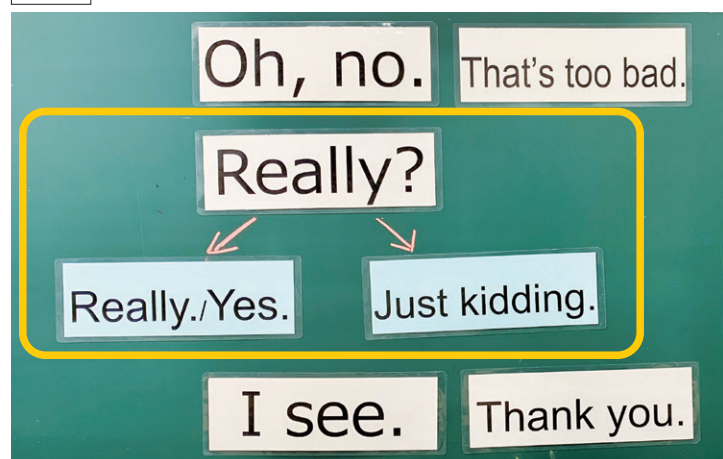


図1は、言語活動の際に黒板に掲示する **plus one** の一部です。Really?と言われたときの返答としては、Really.、Just kidding.などを指導しています。はじめに述べたような、相づちやジョークを交えた会話は、1年生の時から、こうした表現を繰り返し使い、習熟することで初めて可能になります。

図2は「冬休みインタビュー」で使ったワークシートです。冬休みに関する質問をいくつか考え、友達にインタビューをし、インタビュー記事を書くという活動です。

図2

Questions	
1. Will you play badminton at school?	<p style="text-align: center;">plus one</p> <p>Me too. 私も yes / Me neither. 私も no Wow! Great! Sounds good. You're lucky. Oh, no. That's too bad. Really? I see. Thank you. Pardon? Uh-huh. Well...</p>
2. Will you study 3 hours each day?	
3. Will you go skiing?	
4. Will you get a present on Xmas day?	
5. Will you eat a piece of cake on Xmas day?	
6. Will you go to your grandparents' house?	
7. Will you visit a shrine?	
8. Will you go shopping?	
9. Will you go to the movies?	
Interview & Writing	
Notes	<p>I'll tell you about _____'s winter vacation. plus one</p> <p>1. N He won't play badminton at school. - <u>I see.</u></p> <p>2. N He won't study 3 hours each day. - <u>That's too bad.</u></p> <p>3. Y He will go skiing. - <u>Sounds good.</u></p> <p>4. Y He will get a present on Xmas day. - <u>He's lucky.</u></p> <p>5. Y He will eat a piece of cake on Xmas day. - <u>Me too.</u></p> <p>6. Y He will go to his grandparents' house. - <u>Great!</u></p> <p>7. Y He will visit a shrine. - <u>Me too.</u></p> <p>8. Y He will go shopping. - <u>Sounds good.</u></p> <p>9. N He won't go to the movies. - <u>Me neither.</u></p> <p>Thank you.</p> <p style="text-align: right;">Class _____</p>

活動1：質問を考えます。

活動2：友達にインタビューします。相手の答えに対して**plus one**を返すことで、簡単に自分の気持ちを伝え、相づちの効果でインタビューをスムーズに続けることもできます。相手の答えは、左下のNotesの欄にY/Nでメモしておきます。

活動3：インタビューが終わった後、インタビュー記事を書きます。記事を書くときにも、**plus one**を使って自分の気持ちを書き加えるように指導しています。

英語科の目標は、単に英語が使えるようになることだけではないと考えています。授業の中で**plus one**を即興で使う経験を繰り返すことで、日本語でコミュニケーションをとるときにも、相手意識をもって、相づちを打ち、自分の気持ちを伝え、よりよいコミュニケーションができることを目指しています。

最後に 実践で紹介した**plus one**の表現は、毎日の授業で、活動中に思わず生徒が日本語で言ってしまった「本当?」「私も好き!」などの言葉から少しずつ増えていきました。活動中に生徒が思わずつぶやいたら、生徒が言いたい、伝えたいことを授業に取り入れていくチャンスです。「英語で楽しく伝え合う」中学生を目指して、毎日の言語活動に**plus one**を!

